

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第6学年では基礎・活用ともに区平均正答率よりポイントが上回っており、知識の定着や技能の向上を図る繰り返しの指導の効果が見られた。

(2) 課題

- ・区平均正答率を上回っている項目はあるが、目標値は、どの学年においても正答率の達成がなされていない。特に第5学年では、ほとんどの項目で目標値、前年値に対してポイントが下回る結果となった。基礎学力の習得がなされるように、日常生活の経験と関連付けるなど既習の知識を生かして課題解決を行いながら、新しい知識を獲得できるような工夫をする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。目標値はやや下回っている。		
第5学年	目標値、区平均、全国平均正答率を下回っている。 (第5学年時)	区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。目標値はやや下回っている。 (第4学年時)	
第6学年	目標値はほぼ同等の結果となっている。全国平均正答率をやや下回っている。	目標値はほぼ同等の結果となっている。全国平均、区平均正答率をやや上回っている。 (第5学年時)	目標値、全国平均を上回り、区平均正答率をやや上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
<4年生> ・知識・技能の校内平均正答率は区平均正答率を上回っているものの、目標値、全国平均正答率を下回っている。 ・特に実験器具の使い方、植物の育ち方に関する問題は、目標値を下回っていた。	<4年生> ・思考・判断・表現の校内平均正答率は区平均正答率、全国平均正答率を上回っているものの、目標値を下回っている。 ・特に磁石の性質（極に関する問題）は、目標値を大きく下回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
< 5年生 > ・校内平均正答率は目標値、区平均正答率、全国平均正答率どれも下回っている。 < 6年生 > ・校内平均正答率は区の平均正答率をやや上回っているが、目標値、全国正答率をやや下回っている。 ・特に天気の変化では、正答率が目標値から6ポイントも下回っていた。	< 5年生 > ・校内平均正答率は目標値、区平均正答率、全国平均正答率どれも下回っている。 < 6年生 > ・校内平均正答率は目標値、区平均正答率、全国平均正答率どれもやや上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
・器具の使い方が理解できていない児童が多い。実験や観察を行う際には、全員が器具に触れながら記録したり、器具の使い方動画を視聴したりすることで、使用方法の定着を図る。 ・理科で学んだことが日常生活の中で活かしていることを繰り返し伝え、日常生活と学習を結び付けながら理解できるようにする。	・ノートに考えを書く際には、自分の考えや気付いたことを言葉で表現するように指導する。 ・予想する場面では、既習事項や生活経験と関連付け、根拠をもって予想をたてることができるよう、ICT機器を活用したり、実物を提示したりする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
< 5年生 > ・既習内容の知識が定着していない結果になっている。理科で学んだことが日常生活の中で使われていることを繰り返し伝え、気付かせ、興味をもって知識の習熟を図る。 ・実験を全員が行い、器具に触れたり、記録したり、役割や責任をもたせるため、3～4名程度のグループで取り組み、基本的な技能の向上を図る。	< 5年生 > ・実験を計画する段階において、どんな条件で行うと結果に反映されるのかという視点で話し合う時間を多く設けることで、問題に対して予想することや仮説を立てることを指導する。そうすることで、どのようにすると問題解決につながるのかを丁寧に説明する。 ・実験に際し、自分の予想や考えなど、自分の言葉で説明し伝え合う活動を取り入れる。 ・教科書にある図やグラフを基に、自分で説明する際に活用できる資料を自分で用意できるように促していく。

<第6学年>

- ・実験を全員の手で行えるようにし、実験や観察に使う器具の正しい使い方を身に付け、技能の向上を図る。
- ・具体物が扱えない生命・地球の領域の学習については、ICT 機器を活用することで知識の定着を図る。

<第6学年>

- ・観察や実験で分かったことを、生活経験と関連付けて言葉や図・グラフを用いて、観察カードやノートに分かりやすく表現できるようにする。